



間入りをしたということを中心に置きこれからの生活は自分から行動を起こし過ぎしていきたくないと思っています。

今後どういう大人になりたいのか、どう生きていきたいのかをゆつくりと考え、自分は今理想の自分になれているのか、いきたいように生きられているのか時々振り返りたいと思います。

最後に、今まで私に関わってくださった方々への思いをほかの方へとかえていくことができたらいいなという思いを忘れずに、これからの日々を生活していきたいです。



— 成人式実行委員の皆さんをご紹介します —



小諸東中学校関係者



芦原中学校関係者



青磯 上木 木村 小林 佐藤 土屋 土屋 中原
 俊樹 魁己 卓佑 涼夏 加奈子 瑞季 朝香 美里 郁恵

かなみ (五十音順)

第二回公民館関係役員研修会

平成二十七年十一月十日(火)午後七時から八時三十分まで小諸市公民館第一講義室で開催されました。

はじめに、連絡事項を伝える。次に本日の研修会のメインである、一般社団法人地域ケア総合研究所長の竹重俊文氏による、「誰もが住み慣れた地域で暮らすことを支援する」と題して講演会が始まる。以下講演の要旨のみを記したい。

I 私たちの暮らしは法律で支えられているが特に、高齢者や障がい者、幼児等の生活弱者はその法律で普通の暮らしを妨げられていることに気づくべき。

II 二〇三〇年には、高齢者三十一・八%、三人に一人が高齢者となる超高齢社会となる。よって、社会保障費は、限界となる。

III 若者が高齢者を支える時代から、元気な高齢者が支援の必要な高齢者・障がい者を支援する時代となる。

IV 法制度がない時代は、すべて自助・互助が主役であった。これからは、また元に

戻るかもしれない。互助の中に、支え合いサロン、カフェ、グループリビングがある。

V 区や公民館でサロンやカフェをやるうとすると反対者がいるので、賛同者だけでも始めたい。

VI 小諸市のみなさんが考える。自分のこと、自分の地域・隣組・自治会のこと・自分のまちのこと。

VII 国は、地域のことは関与しない。地域づくり・地域福祉は、住民が主役でないこと完結しない。

